

北部工業団地で新工場が建設開始

株式会社オニザキコーポレーション起工式

多久北部工業団地への進出協定を平成19年3月に市と結んだ、ごま食品で全国的に有名な株式会社オニザキコーポレーション（本社：熊本市）の新佐賀工場の起工式が、7月14日に建設予定地で行われました。地鎮の神事の後で約50人の来賓を前に、金丸美智夫代表取締役は「海外進出への選択肢もあるが、国内に、特に会社発祥の地である佐賀にこだわった。多久の伝統・文化を尊重し、市民のみなさんと協力し合っていきたい。」と意気込みを語られました。



工場は来年3月に完成し、6月に操業開始の予定です。



▲来賓への挨拶の中で抱負を語る金丸美智夫代表取締役
地上3階建ての工場完成予想図▶

多久いっばいの夏野菜カレー

給食センター1日体験

7月25日に市内の小学4年生を対象に、多久市学校給食センターを開放しての一日体験が開かれました。参加した児童33人は、センターの職員から施設内で、調理設備の説明を受け、自分達が普段食べている給食がどのようにして作られているのか、栄養や衛生管理に細やかに配慮されていることなどを学びました。また、多久で取れた野菜を材料にカレーの調理を実践。1つで千人分まで作れる蒸気釜のなかを、自分の背丈ほどまでもあるしゃもじで交代でかき混ぜては、漂ってくる香ばしい匂いにできあがり待ちきれない様子でした。この後は、各小学校の校長先生を招いてのお食事会。野菜の苦手な子も、満面の笑みで味わっていました。



▲給食を作ってくれるセンターのみなさんのお仕事を体験中

私たちもふるさとを応援します

関東多久の会からの激励

7月5日に東京都内で、関東多久の会（会長：岡田史一さん、会員550人）の、毎年恒例の総会が開かれました。同会は、ふるさと多久を離れ、現在は関東周辺にお住まいの方々に構成されている同郷人会です。

今回の会合に、多久市から横尾市長をはじめ中川教育長、市議会を代表して吉浦啓一郎議員が出席し、市政の報告と多久聖廟300年祭やふるさと応援寄附金のPRを行いました。集まった約80人の会員のみなさんは、「遠く離れても、生まれ育ったふるさとのことは忘れません。いつも多久のことを思っています。」と話されました。

また、多久聖廟がふるさと文化遺産として大切に継承されていることに感銘を受けられ、同会から孔子像修復募金として、市に10万円の寄附が贈られました。



▲横尾市長に寄附金を手渡す岡田会長